

月例報告書

国際文化学科 2年 玉谷天音

こんにちは。国際文化学科2年の玉谷天音です。私は2月からブルゴーニュ大学付属の語学学校に通っています。これから1年間こちらでの生活の様子を随時更新していく予定です。



<日本からフランスまで>

わたしにとって今回の留学は初めての海外でした。最難関はやっぱりビザ、こまごまとした手続きが3か月は続きます。航空券、パッキング、全てが初めてで何もわかりませんでした。ひとつずつ根気強く調べれば情報はそこら中に転がっています。そんなこんなで乗り継ぎも上手くいき無事シャルルドゴール空港にたどり着きました。

<ロストバゲージ>

シャルルドゴールまで着いたのはいいものの、まさかな出来事が起こりました。わたしの荷物が出てこない、、?! 乗り換えの飛行機で懸念していたことの一つではありましたが、まさか自分の荷物がなくなるとは思っていませんでした。もしもの時のためにAir タグを買おうか迷った末、何とかなんと買わなかったことをすごく悔やみました。幸い、貴重品はすべて手荷物に入れていたため、大事な書類やパソコンなどはありましたが、スーツケースには最悪捨ててもいいものしかいれない! と思っていたもののやはり心のダメージは大きかったです。カスタマーセンターで荷物がないことを伝え見つかったら連絡するね、とその日は手荷物のみで寮に向かいました。

<その後の生活>

寮に辿り着いて、一息つきたい気分でしたが、そうしちゃいけない! 必要なものの買い出しに行きました。ディジョンはトラムを使えばいろいろなところに行けます。トラムはチケットが1h、24hなどの時間性になっています。チケットを買い、トラムの中にある機会にチケットをかざせばどこまででも乗れます。ディジョンには大きなショッピングモー

ルが2つあるので、そこで買い物をしました。次の日にはもう一つのショッピングモールで買い物を。こちらに居た先輩に助けられ、何とか2日で最低限生活できるものを手に入れることができました。その後2週間を経て荷物が帰還。1週間以上何の音沙汰もなく、諦めかけていたところに、運送会社から荷物を届けていますとの連絡が。それがスーツケースかどうかの空港からの連絡はありませんでしたが、スーツケースを再び手にできて本当に嬉しかったです。

<フランスの食事>

フランスに来てから、今もなお苦戦しているのは食事です。学食では米やパン、パスタなど日替わりでいろいろなものが食べられます。量が多いため、パンやデザートは持ち帰って夜ごはんにすることもしばしば。ただ、今週は学食がお休みで自分で食事を作らなければいけませんでしたが、フランスのご飯が日本人の口に合わないことはないのですが、わたしの場合、自分でご飯を作ると味に満足することができません。パスタと野菜とトマトソース、またはバジルソースといつも同じ味になっ



なってしまいます。レンジやお湯だけでできるものや冷凍のものも食べてみましたが、なんだがイマイチ。空腹感は満たせても満足感が得られない食事です。郷に入っては郷に従え、ここに醤油やだし、みりん、酒なんてありません。こちらにあるのは、バジル、オリーブオイル、レモン、バルサミコ酢、ワインです。これからは、これらの調味料を使って美味しい味を研究していきたいです。

<なんとかなる>

ほぼ身ひとつでフランスに辿り着き、2週間生活をしましたが、やっぱり何とかかなります。食事もできているし、生活しているし、それらの水準が低いにしてもなにより生きている。フランス語はほぼ聞き取れない喋れないでも、生活ができた。どれだけ怖くても、ストレスでも、どこに行っても人間は生きているのだから。案外、どこに居ても何とかかなります。それを忘れないで、自分のペースで、これからいろんなことに挑戦していきたいです。ひとまず、フランス語でコミュニケーションがとれるようになることを目指して日々勉強。それでは、À bientôt~